「azbilレポート2025」編集方針

azbilレポートは、財務情報と非財務情報を統合し、azbilグループの中長期的な成長・価値創造のストーリーを、株主・投資家をはじめ、お客様やお取引先様、社員、事業展開する地域社会など様々なステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的として発行しています。編集にあたっては、IIRC（現IFRS 財団）による「国際統合報告フレームワーク」や経済産業省の「価値協創ガイダンス」などを参照しています。なお、詳細な財務情報については「有価証券報告書」、ガバナンス情報については「コーポレート・ガバナンス報告書」に記載しています。

[報告範囲]

アズビル株式会社および連結子会社

[報告期間]

2024年4月1日～ 2025年3月31日（一部に対象期間外の情報を含みます）

〔注意事項〕

本レポートの記載内容は、お断りなく変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。本レポートに記載されている、計画、目標、戦略など過去の事実でないものは、編集時点における見通しおよび計画であり、これらは、入手可能な情報からなされた経営者の判断に基づいています。したがって、これらは将来の業績を保証するものではなく、様々な重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。なお、実際の業績に影響を与える要素には、次のようなものが含まれます（これらに限定されるものではありません）。

（1）azbilグループを取り巻く経済情勢や為替変動、設備投資動向等

（2）急激な技術革新やグローバル経済の進展の下、厳しい市場競争のなかでお客様に受け入れられる製品やサービスを継続的に提供していく能力の変化等

重要リスク項目や具体的なリスク事象についてはp.71～72リスクマネジメントを、重要リスクのリスク認識、リスクの具体的な対策については、第103期の有価証券報告書をご覧ください。

※ 財務データおよび財務諸表は有価証券報告書をベースに作成しており、記載金額は切捨てで表示しています

第103期有価証券報告書

https://www.azbil.com/jp/ir/library/report/__icsFiles/afieldfile/2025/06/24/103yuho.pdf

アズビルの情報開示

	非財務情報	財務情報
開示資料	**統合報告書　azbil report**	
	コーポレート・ガバナンス報告書	有価証券報告書※
	ESGデータブック	決算短信※
		中期経営計画
		決算説明資料
		株主総会招集通知※
		株主の皆様へ
		※法定開示・適時開示書類
対話	社外取締役と投資家のミーティング	株主総会
	施設見学	決算説明会
	ESG説明会	IRミーティング

・上図の財務情報・非財務情報は、主な開示範囲を示しています。近年、有価証券報告書等は非財務情報についての開示も拡大してきています
・統合報告書に掲載しきれないデータ、詳細内容は、上記の各種開示資料に掲載しており、Webサイトにて公開しています

表紙デザインについて

歯車をつなぎ合わせる複数の手は、azbilグループとステークホルダーの協働を表しています。新中期経営計画のテーマは“進化・共創”です。azbilグループの技術・製品・サービスを組み合わせ、活かしながら、持続可能な社会の実現に向けてステークホルダーとともに歩んでいきます。

CONTENTS

イントロダクション
価値創造の歩みと現在

3 azbilグループのDNAと目指す未来
4 At a Glance
5 価値創造の歴史
6 価値創造の歴史 ～主な製品とサービス～
7 azbilグループのオートメーション事業
8 社会と自らの成長を実現する azbilグループらしさと培ってきた強み

トップメッセージ
リーダーシップ

9 社長メッセージ

15 副社長メッセージ

価値創造ストーリー
持続可能な社会へ「直列」に貢献

20 マテリアリティ
21 マテリアリティとazbilグループSDGs目標
23 azbilグループの価値創造モデル
24 6つの資本 azbilグループの経営資源・価値創造の源泉

価値創造に向けた戦略

25 2030年度の目指す姿に向けた中期経営計画の取組み
26 前中期経営計画（2021～2024年度）の振返り
27 新中期経営計画（2025～2027年度）の骨子
28 01 azbilグループらしい事業モデル
29 02 事業モデル強化のための投資
03 経営基盤の強化
30 グループ経営戦略
31 ビルディングオートメーション事業
33 アドバンスオートメーション事業
35 ライフオートメーション事業
37 グローバル戦略

価値創造のためのイノベーション戦略

39 デジタルトランスフォーメーション（DX）
41 研究開発
46 知的財産／品質保証
47 生産・調達
49 サービス・エンジニアリング

価値創造と持続性を支える基盤戦略

50 サステナビリティ経営
52 人的資本
57 Well-being
58 人権尊重の取組み
59 環境
67 サプライチェーン
71 リスクマネジメント

コーポレート・ガバナンス

73 社外取締役座談会

77 コーポレート・ガバナンス
83 役員一覧
86 コンプライアンス・内部統制

ステークホルダー・エンゲージメント

87 ステークホルダー・エンゲージメント
88 2025年大阪・関西万博のテーマウィークに協賛

会社情報

90 11年間の主要財務・非財務データ
92 会社情報／株式情報

azbilレポート2025のポイント

2025年5月にazbilグループは、2030年度に掲げる長期目標達成に向けて新たな中期経営計画（2025~2027年度）を公表しました。本レポートではこの中期経営計画について概要から各事業における個別施策までを価値創造に向けた戦略として説明しています。
特に、社長メッセージにおいて、持続的な成長を実現するための事業モデルから、これを強化するための投資戦略等についてご説明し、副社長メッセージにおいて資本コストを意識した経営、事業ポートフォリオの再構築、バランスシートの有効活用による投資等をより具体的にご説明しています。
このように、本レポートの制作にあたっては、経営トップから各部門のトップまでが価値創造に向けた、それぞれの取組みについて語る形式を昨年に引き続きとっていますが、併せて、価値創造に参加した社員、お取引先様等の声も随所に掲載するようにいたしました。例えば、アズビル株式会社は大阪・関西万博に協賛しており、社員エンゲージメントの観点から若手を中心にプロジェクトを進めてきています。こうした若手社員の生の声を掲載（p.88）したのもその一例です。このほか、迅速な執行と透明性の高い経営を実現するためのコーポレート・ガバナンス強化の取組みについても、指名委員会委員長、監査委員会委員長、報酬委員会委員長そして取締役会議長を担う社外取締役による座談会を掲載しています。

azbilグループのDNAと目指す未来

創業者精神
～「人間の苦役からの解放」を原点として

創業者 山口武彦

azbilグループの歴史は1906年、山口武彦の「人間を苦役から解放したい」という志の下に設立された工作機械の輸入商社「山武商会」に始まります。以来、当社グループは時代の要請やお客様ニーズの変化に対して、常に原点を忘れることなく、これをDNAとして引き継ぎ、イノベーションを積み重ねてきました。オートメーションの必要性を理解し、いち早く事業化した山武は、戦後復興期から高度成長期に至る日本の産業界の発展に貢献しました。1970年代においては、Savemation※を掲げ、社会の要請である省資源・省エネルギーに取り組みました。2006年には、創業100周年を機に、高度な計測・制御技術とノウハウをもとに、オフィスや工場、家庭で過ごす人々の「安心、快適、達成感」と「地球環境保全」の実現を通じて持続可能な社会に貢献するという企業としての意志表明として、グループ理念を「人を中心としたオートメーション」としました。

※ Savemation：Saving by automation

オートメーションの技術で
持続可能な社会の実現に挑戦、未来を拓く

近年、地球温暖化の影響顕在化や新型コロナウイルス感染症の拡大による行動変容により、持続可能な事業・社会と地球環境保全への対応が強く求められています。こうした新たな課題の発生は、これに対応するためのオートメーションの役割が拡大し、その価値が向上することを意味しています。azbilグループは、AI、クラウドなどの最新技術を活用してオートメーションの対象領域をさらに拡大、オートメーションによる課題解決力を高め、新たな価値創造の追求を加速させています。2026年、当社グループは120周年を迎えます。これまでがそうであったように、オートメーションに対する時代の要請を見極め、2030年、そしてその先の持続可能な社会の実現に向けて、私たちのあるべき姿を追求していきます。オートメーションの技術で、人と社会をつなぎ、これまで困難とされた事象に挑戦し、可能とすることでお客様や社会のパートナーとして、ともに未来を切り拓いていきたいと考えています。

azbilグループの企業理念
～人を中心としたオートメーション

azbil

automation・zone・builder※

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

そのために
- **私たちは、お客さまとともに、現場で価値を創ります。**
- **私たちは、「人を中心とした」の発想で、私たちらしさを追求します。**
- **私たちは、未来を考え、革新的に行動します。**

※ オートメーション（automation）の技術によって、グループ理念のキーワードである安心、快適、達成感のある場（zone）を実現（build）することを表しています

時代のニーズに合わせて常にオートメーション技術によるソリューションを提供。これからも新たな課題に挑戦し続けます

1906年 創業

- あらゆる建物の快適性・機能性・省エネルギーの実現 快適で効率の良い執務・生産空間の創造 ― ビルディングオートメーション事業
- 工場・プラントなどにおいて、安全で人の能力を発揮できる生産現場の実現の支援 ― アドバンスオートメーション事業
- 計測・制御の技術・サービスをライフライン、住宅に展開し、活き活きとした暮らしに貢献 ― ライフオートメーション事業

新たな お客様・社会の課題
事業環境の変化
技術革新
社会構造の変化

オートメーションの果たすべき役割の拡大／価値の向上

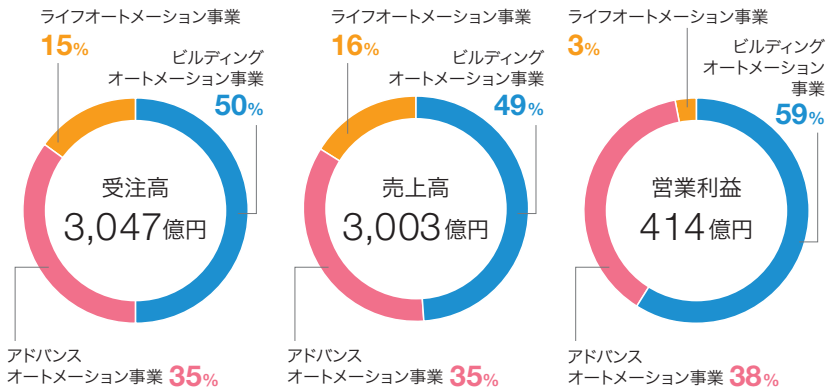
“進化・共創”による オートメーション事業の発展・社会への貢献を通して、社会・お客様とともに未来を拓く

At a Glance (2024年度)

財務指標

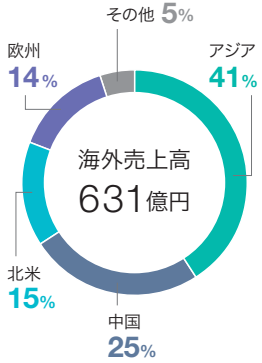
受注高	売上高	営業利益	当期純利益	営業利益率	ROE	社員数
3,047億円	3,003億円	414億円	409億円	13.8%	17.9%	8,922人 国内 6,556人 海外 2,366人

事業構成

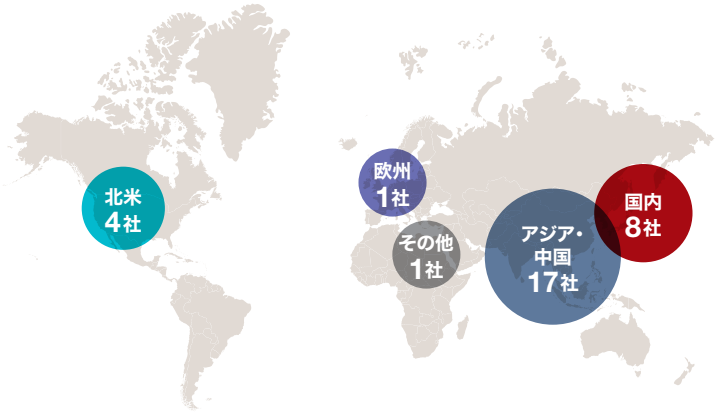


海外売上高

(海外売上高比率:21.0%)



azbilグループ会社



サステナビリティ(非財務)指標

お客様の現場におけるCO_2削減効果	azbilグループの拠点における自らの事業活動に伴うCO_2排出量(スコープ1+2)	公的資格(重点資格)の有資格者数	[社員満足度調査] azbilグループで働くことに満足している社員比率	一年間で仕事を通じて成長を実感する社員比率
272 万トンCO_2/年	1.1 万トンCO_2/年	2,764人 (延べ人数)	59%	61%

参画・賛同する主な宣言・イニシアチブ、社外評価

- 「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」賛同表明
- 「国連グローバル・コンパクト」署名
- 気候変動イニシアチブ、日本気候リーダーズ・パートナーシップへの賛同
- TNFD開示提言に賛同し「TNFD Adopter」登録
- 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)選定インデックス
  FTSE Blossom Japan Index、MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index、MSCI日本株女性活躍指数(WIN)、S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数、Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
- 女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」最高位認定、「プラチナくるみん認定」取得、健康経営優良法人2025(ホワイト500)認定
- 第6回ESGファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業」選定
- FTSE 4Good Japan Index、JPX日経インデックス400

価値創造の歴史

1906年、山口武彦により創立されたアズビルは創業精神の「人間を苦役から解放する」を原点に社会とお客様の課題を解決するべく、
一世紀以上にわたり計測と制御に関わる製品とサービスを提供し続けてきました。
時代が変わっても創業の精神は私たちの中にDNAとして息づいています。
創業の精神からつながるグループ理念「人を中心としたオートメーション」に基づき、
常に、産業・社会、そしてお客様が直面する課題を解決するための
新しい価値の創造に取り組んでいます。

1906～1950年代 人間の苦役からの開放

**工業計器の輸入から
機器の自主開発・国産化**

日本の近代化に向けて、欧米の先進技術の導入が喫緊の課題。さらなる工業化、発展のために、輸入に依存していた工業計器の国産化への要望拡大

1906
**欧米工作機械類の輸入商社として
山武商会を設立**

ドイツより工作機械の輸入販売を始め、その後、米国のブラウン社（後のハネウェル社）の工作機械・計器の製造販売メーカーに転身。新素材産業の発展に伴い工業計器を普及させ、戦後は日本の復興・重工業の発展に貢献。

1950～1970年代 First in control

**オートメーションによる
高度経済成長への貢献**

高度成長期を迎え、各種製造業において技術革新を伴う大型化・近代化投資が進み、計測やエンジニアリングの需要が増大

1953
**米国有数の制御機器メーカーである
ハネウェル社と戦後初の50対50の資本提携
（～1990年）**

1966
社名を山武ハネウエル株式会社に変更

ハネウェル社の持つ空調制御技術や燃焼安全制御技術、マイクロスイッチなどを日本に導入。独自技術による革新的な電気式小型計器や、大規模建物に対応した中央監視システムなどを普及させ、総合オートメーションメーカーとして高度成長期を支えた。

1970～2000年代 Savemation

**省エネルギー、
高機能・高精度化ニーズの高まりに対応、
デジタル計装への変革**

1970年代の石油危機以来、省エネルギー化・省人化が進展。さらに工業機器のデジタル計装化、計測制御システムの高度計装化やソフトウェアへの需要が拡大

1998
社名を株式会社山武に変更

石油危機を契機にあらゆる産業の省エネルギー化・省人化が進むなか、企業理念として様々な分野での「省」（=save）の実現、地球環境への貢献を明確に打ち出す。高機能・高精度の工業計器ニーズに対応した各種製品や、通信技術を活用したビルの総合管理サービスなどを展開。

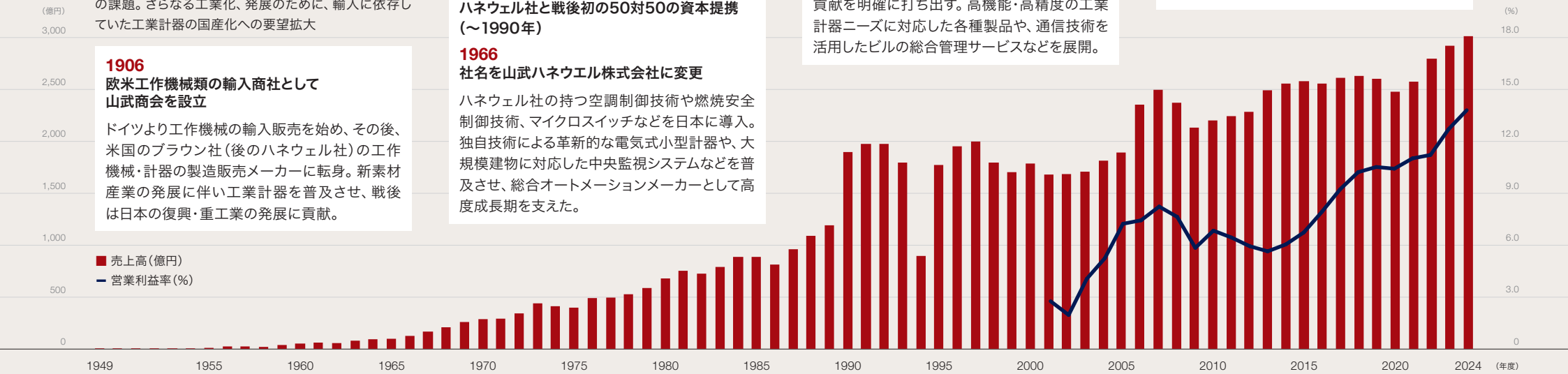
azbil 2000年代～ 人を中心としたオートメーション

**増大する社会的ニーズへの対応と
持続可能な社会へ
「直列」に繋がるソリューションを提供**

インターネットの世界的な普及、グローバル化が進行。反面、人口、エネルギー、地球温暖化等の問題も顕在化。持続可能な地球環境創出のため、オートメーションに求められる役割が拡大

2008
グループ名称をazbilグループに変更
以降、順次社名を「アズビル」を冠するものに変更

オートメーションで人々の「安心、快適、達成感」を実現するという進化したグループ理念の下、ネットワーク技術の進展とともに、AI、ビッグデータといった様々な技術革新に対応した製品やソリューションを各分野で展開。グローバルでのお客様や社会の課題解決と持続的な発展を目指す。



※1995年は事業年度変更による変則決算

価値創造の歴史 ～主な製品とサービス～

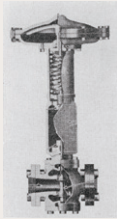
1913
十文字式平円盤型
翼車型水道メーターを製造

1916
米国ブラウン社（のちのハネウェル社）の
工業計器の輸入販売を開始

1933
山武商会計器製作所を設置。
ブラウン社製品の国内組立を開始。
工作機械および計器の
製造販売を行う
メーカーへと変身

1936
日本初の自動調節弁国産化に
成功

製造業に不可欠な計測制御機器を国産化。日本の近代化、戦後の製造業の発展に貢献



1953
空調用制御機器の
輸入販売を開始

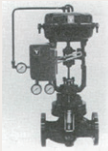
1953
日本初のプロパンガスメーター乾式PI灯を開発、
生産開始

1958
基本形マイクロスイッチの国産を開始

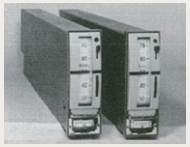
1959
制御用小型モータのモジュトロールモータの国産
第1号が完成

1963
縦型偏差指示調節計VSIを
内外メーカーに先んじて自主開発・生産

1964
ケージ型調節弁を
世界で初めて
商品化



1971
電気式小型計器
ニュートロニック・ライン、
空気式小型計器
ビューマチック・ラインを
独自技術により開発、発表



1975
ハネウェル社と
分散型総合制御システムTDCS™2000を
共同開発

1975
独自開発の矩形波励磁方式を
世界で初めて採用した
電磁流量計MagneW™を販売開始

1980
ビル総合管理システムSAVIC™を独自開発

1984
遠隔監視による総合ビル管理サービス
BOSS-24™を開始

**通信を活用した
ビジネスを展開、
40年を超える実績**

1985
次世代調節弁CV3000を開発

1994
当社100%出資による本格的な海外生産会社
を中国に設立

1995
オープンな小規模計装システム
協調オートメーションシステムHarmonas™
販売開始

1999
マイクロフローセンサ™を搭載した
気体用マスフローメータ販売開始

**社会・お客様の
新たなニーズにお応えするために
MEMS技術を活用**

2001
ベルギーにヨーロッパ初の現地法人を設立

2009
制御弁と計測機能を一体化した
バルブ流量計測制御機能付
電動二方弁ACTIVAL™販売開始

2014
北米に初の技術開発会社を設立

2016
オンライン異常予兆検知システム
BiG（ビッグ） EYES（アイ）™販売開始

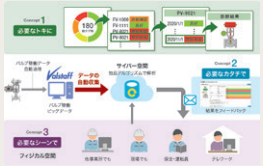
**製造現場のDXを加速。設備の安定運転や
品質不良対策等、実務レベルの課題に貢献**

2018
BAシステムsavic-net™G5販売開始

**ウェルネスを含め、建物環境の進化ニーズに
お応えするオープンで
フレキシブルなシステムを提供**

2020
Dx Valve Cloud Service販売開始

**プラントや工場の
生産設備の
安全・安定操業に貢献**



2023
アズビルとX1Studio株式会社が業務提携

**生成AI・クラウドサービスの普及による国内外での
データセンター需要の拡大に対応**

2024
AIを活用した「予兆保全」を実現する設備管理
プラットフォームBiG EYES MM™を販売開始

azbilグループのオートメーション事業

ビルディングオートメーション事業

快適さと省エネルギーを両立する
建物環境を創造し、
建物のライフサイクルにそった
サービスを長期にわたって提供

事業フィールド：
オフィスビル、研究所、工場、データセンター、
ホテル、ショッピングセンター、病院、学校、空港等

▶管理する

BAシステム

▶制御する

空調設備用
コントローラ

▶守る

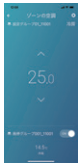
非接触
ICカードリーダ

▶検知する

室内用
温湿度センサ

赤外線
アレイセンサ

▶調節する
流量計測制御
機能付
電動二方弁



▶設定する
スマホアプリ
（居室ユーザー用）

▶リニューアル、メンテナンス

▶各種クラウドサービス

アドバンスオートメーション事業

お客様とともに、
「製造現場における
新たな価値創造」を実現

事業フィールド：
ファクトリーオートメーション（FA）分野：
電気・電子、半導体、工作機械、自動車、食品等
プロセスオートメーション（PA）分野：
石油、石油化学、化学、鉄鋼、紙パルプ、薬品等

プロセスオートメーション

▶監視する
協調
オートメーション
システム

▶計測する

差圧・圧力発信器

電磁流量計

▶調節する
調節弁／
スマート・バルブ・
ポジショナ

▶診断する・予測する
オンライン
異常予兆検知システム

ファクトリーオートメーション

▶検出する
漏液スイッチ

リミット
スイッチ

▶制御する

グラフィカル調節計

デジタルマスフロー
コントローラ

ライフオートメーション事業

計測・制御の技術で
安全・安心で快適、
健康な暮らしを支援

事業フィールド：
ライフライン分野（ガス・水道メーター）
住宅用全館空調システム分野（全館空調システム）

ライフライン分野

▶ガス機器事業

膜式
スマートメーター

超音波式
スマートメーター

▶水機器事業

電子式
水道メーター

電池電磁™
水道メーター

住宅用全館空調システム分野

▶全館空調システム

室外機

室内機・電子式
エアクリーナ

熱交換型換気装置

社会と自らの成長を実現するazbilグループらしさと培ってきた強み

オートメーション事業を通し、azbilグループらしさと培ってきた強みを活かして持続的な成長を実現し、持続可能な社会へ「直列」に貢献する

私たちazbilグループは、オートメーションの技術を核に、IoTやAI、ビッグデータ、クラウドといった技術革新を取り入れて、オフィスやプラント・工場、人々の暮らしに展開。日々の生活に安心・快適・豊かさを、産業と社会にサステナブルな提案を続けています。私たちの活動領域は広く社会・お客様の重要施設に広がり、強い顧客基盤を形成、この顧客基盤と産業や社会の新しい課題・需要に対応する成長事業のサイクルを回すことで、社会・お客様とともに持続的な成長を実現することが可能です。

現在、“進化・共創”をテーマに、これまでに培った強みを活かし、azbilグループらしい事業モデルで成長を目指す新中期経営計画（2025～2027年度）を策定、新たな取組みを始めています。

長年にわたり現場で蓄積した専門技術とノウハウ

1906年の創業からおよそ120年にわたってオートメーションの現場に関わり、様々な専門技術・ノウハウを保有。
DX、AIを活用しさらなる進化を目指します。

開発・製造・販売からメンテナンスサービスまでを行う一貫体制

社会・お客様の課題は様々であり、施設のライフサイクルの各段階でも異なります。最新の技術開発・製造体制の構築に取り組むとともに、数十年という長期にわたってメンテナンスサービスを提供し、顧客基盤を形成しています。

現場を理解したお客様視点でのソリューション提案

現場を熟知したエンジニアがお客様視点でのソリューションを提案します。
人材が要であり、人的資本への投資を強化しています。

グループ理念
人を中心としたオートメーション
p.3

マテリアリティとazbilグループのSDGs目標
p.21

中期経営計画（2021～2024年度）
p.26～

新中期経営計画（2025～2027年度）
azbilグループらしい事業モデルで成長を目指す
p.27～

長期目標

2030年度

持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献による事業拡大を通じた、社会と社員のWell-beingの実現を目指す

長期目標（見直し）
（業績目標）
（2025.5.13）

売上高：4,200億円
［海外］：1,000億円
営業利益：650億円
営業利益率：15.5％
ROE：15％